

産学協創研究 事例「日立東大ラボ」

東京大学と日立製作所は、Society 5.0の実現に向けたビジョンを創生し、イノベーションを創出するため、「産学協創」の新たなアプローチとして、2016年6月20日、東京大学内に「日立東大ラボ」を設置いたしました。

都市データの活用により、
個人のQoLと社会最適化を両立するビジョンを創生
プラットフォームを構築

これまでの取り組み

提言書・書籍

Society5.0ビジョン策定、 ダボス会議('18)で発言



ダボス会議ハンドアウト（抜粋）

データ駆動型 電力システム提言書を作成



エネルギー提言書（抜粋）

書籍刊行



フォーラム

ハビタット・イノベーション フォーラム開催

「Society 5.0 実現に向けた課題を提起、社会に発信」



2018年6月13日
「Society 5.0の実現に向けたハビタット・イノベーション」

エネルギー・フォーラム開催 「電力システム提言内容を 省庁／電力会社と共有」



2018年4月18日
「Society 5.0を支える
電力システムの実現に向けて」

試作開発

都市のデータ化とサイバー空間を 活用したデータ駆動型プランニング イメージ図



まちの将来を構想する
データ駆動型プランニングの
インターフェース
「Cyber-PoC」

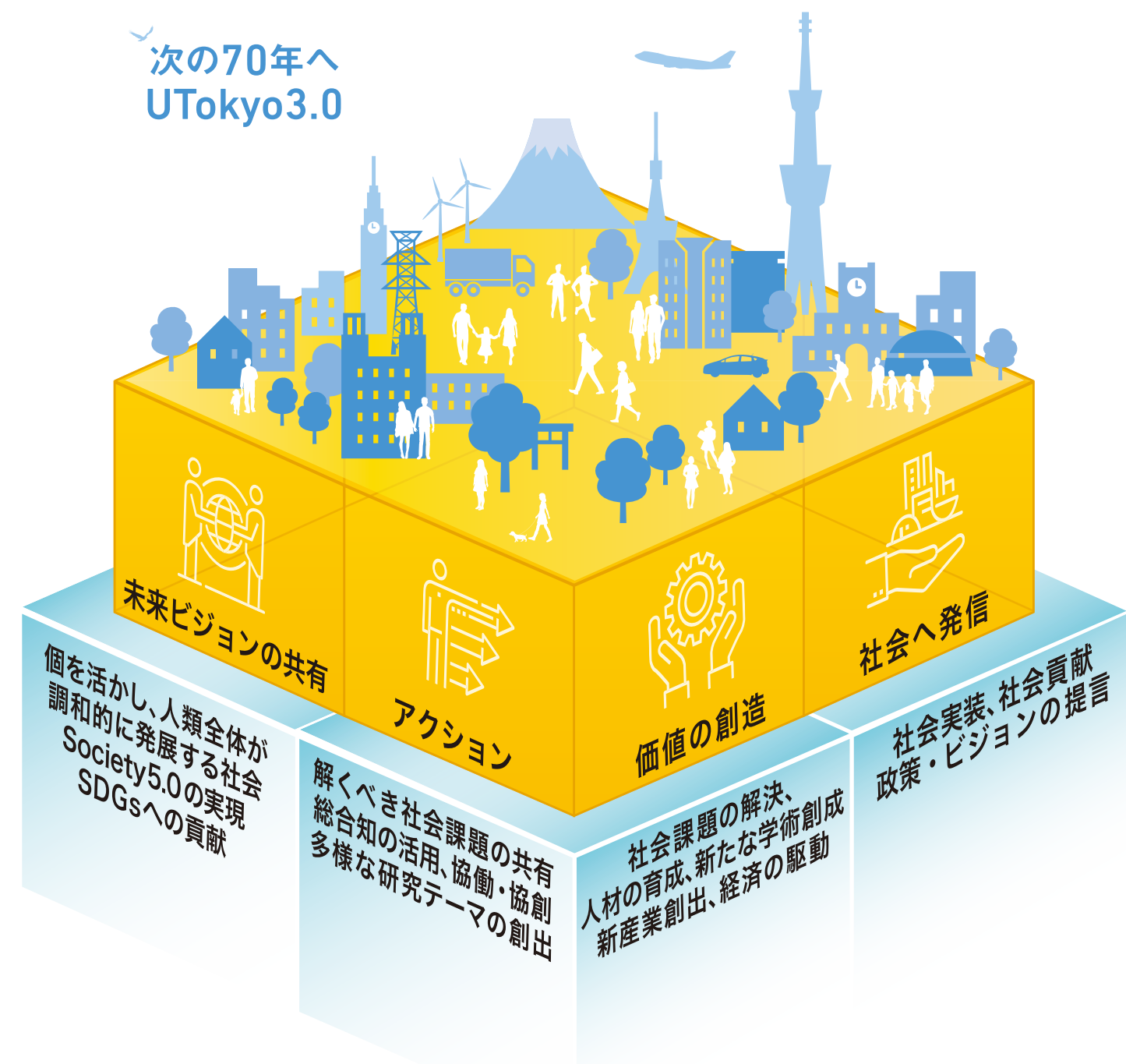
サイバー空間での
都市交通インフラの
プランニング

「日立製作所研究開発グループの技術協力」

より良い未来社会を創るために
産業界とビジョンを共有し
社会課題の解決をめざす

産学協創

次の70年へ
UTokyo3.0



産学協創研究推進プロジェクトチーム

住 所 〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 メール spt.adm@gs.mail.u-Tokyo.ac.jp

「組織」対「組織」による連携

これまでの産学連携は産業界が抱える個別課題の解決に向け、研究室単位での連携が中心でした。

そこで新たに産業界が維持できなくなっている中長期の研究テーマ等、特に「what to do」から一緒にラウンドテーブルをつくって議論し、新たな価値創造に向け、協創、協力して創るといった組織対組織の連携による新しいアプローチをスタート



させました。

特に大学が中心となって社会変革を駆動するためには、科学技術イノベーションと、それを社会に実装するための社会システム、皆が意欲的に参加するための経済メカニズムを三位一体で連動させる仕掛けを創る必要があります。

新しいアプローチ

■ マネジメント

組織連携の合意形成

ビジョン形成、研究テーマ出し、プロジェクト化

事業化領域の協働

■ ラウンドテーブル



そのカギとなるのがSDGsです。国際的に共感性の高いSDGsへの貢献を掲げ、これを共通のビジョンとすることで、より良い未来社会を目指し、産学官民が一体となって、新たな価値を創造することができます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



産学協創研究とは？

産業界と目的を共有し、組織間連携による横断的かつ大型の共同研究に取り組むことを「産学協創研究」という。

特定技術の研究開発だけではなく、社会課題への解決に向けたビジョンの創出から、研究開発の実施、人材育成、社会実装まで一貫して協働する仕組み。

産業界との共同研究に向けて、テーマ創出を議論するラウンドテーブルを文理、分野、部門を超えた複数部局からの多様な研究者の協力により推進する。

特定の学術分野にとどまらず、問題解決に資する人材・知識・技術・情報を多角的に集め討議を重ね、社会課題の解決に取り組む。

より良い未来社会を実現